

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）【医学部保健学科】

1. 教育課程の編成・実施等

医学部保健学科では、高度の医療技術はもとより、豊かな人間性と倫理性を兼ね備え、国民の健康と福祉に貢献できる保健医療の専門職の育成を目的とした教育カリキュラムを提供するという観点から、教養教育と専門教育の教育課程の編成・実施方針をつぎのように定める。

1) 教養教育については、以下の学習を実施する。

- ・ 幅広い教養と外国語の運用能力を身に付け、保健医療分野の国際状況や地域状況を的確に見極める力を養う。
- ・ 基礎ゼミナール等で培った実践的学習能力をとおして国際社会や地域社会の多様性を認識するとともに、保健医療分野の課題を発見・解決する力を養う。

2) 専門教育については、以下の学習を実施する。

- ・ 専門共通科目では、各専攻に共通して必要な基礎科目の他、コア科目を設けている。コア科目は、保健医療専門職の立場から他領域を理解するとともに、保健医療への考え方及び保健医療専門職者としての資質を養う。
- ・ 専門基礎科目及び専門科目は、養成する保健医療専門職の国家試験受験資格を満たすために必要な科目であり、1年次から専門科目を組み込んだ楔型の構成とし、講義の後に演習・実習を展開する。

3) 各専攻については、以下の学習を実施する。

【看護学専攻】

- ・ 看護専門職に必要な知識を体系的に教授することで、人間や社会への洞察を深化させ見通す力を養う。
- ・ 看護学の専門知識を活用し、社会的ニーズの変化に気づき柔軟に対応し、チーム医療の一員として、他職種と連携・協働、調整能力を発揮し問題を解決していく力を培う。
- ・ 看護専門職の教育や啓発に役立つ基礎的能力を身につけ、創造力と探求の習慣を確立し、生涯にわたって看護学を発展・向上させようと学び続ける力を培う。

【放射線技術科学専攻】

- ・ 専門知識と技術を統合するよう体系的に教授することで、論理的思考と客観的判断に基づく洞察力を養う。
- ・ 放射線技術の専門知識を最新の医療技術に応用し、高度な専門知識を活かして問題を解決するための学術的問題解決能力を養う。
- ・ 診療放射線技師として、日々目覚ましく進歩を遂げる医療技術を学び、探求する習慣を獲得させる。

【検査技術科学専攻】

- ・ 臨床検査技師として必要な実践力を習得すると共に、専門知識と判断力をもって保健医療の一端を担う臨床検査学の諸問題を的確に見極める能力を身につけさせる。
- ・ チーム医療の一員として地域の保健医療に貢献できる連携能力を身につけ、問題解決能力を高めさせる。
- ・ 臨床検査技師として、保健医療分野の諸問題を探求し学び続ける力を獲得させる。

【理学療法学専攻】

- ・ 理学療法学の専門的知識とリハビリテーション関連領域の知識を学ぶことにより、理学療法の対象者が抱える諸問題を的確に分析する力を身につけるとともに、保健医療福祉の観点から理学療法学の課題を見極める力を身につけさせる。
- ・ 理学療法の対象者や取り巻く家族等が抱える問題を、理学療法のみならず、専門職連携などにより多面的に解決する実践的な力を身につけさせる。
- ・ 理学療法士の見識と職業倫理を、実践等を通して培い、生涯を通じて自己研鑽に努め、理学療法学

の発展や教育に寄与できる力を身につけさせる。また、理学療法学の学術的課題を計画的および論理的に解決するための手法を研究方法の学習と体験を通して身につけさせる。

【作業療法学専攻】

- ・ 作業療法士に必要とされる実践力を習得し、専門知識と判断力をもってリハビリテーション医療に関わる作業療法学の諸問題を的確に見極める能力を身につけさせる。
- ・ チーム医療の一員として地域のリハビリテーション医療に貢献しうる力を身につけ、問題解決能力を高めさせる。
- ・ 作業療法士として、リハビリテーション医療分野の諸問題を探求し学び続ける力を獲得させる。

2. 教育・学習方法

- (1) 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともに CAP 制を実施することにより、卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学修を促す。
- (2) 主体的に学び続け、見通す力と解決する力を涵養する教育を行う。
- (3) 自ら課題を見出し、その解決に向けて探究を進め、成果を表現する実践的な能力を身につけさせるため、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。

【看護学専攻】

- (1) 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともに CAP 制を実施することにより、卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学修を促す。
- (2) 年次配置に応じて講義、演習、実習を効果的に組み合わせた教育を行う。
- (3) 主体的に学び続け、見通す力と解決する力を涵養する教育を行う。
- (4) 自ら課題を見出し、その解決に向けて探究を進め、成果を表現する実践的な能力を身につけさせるため、学生が主体となる能動的な授業を行う。

【放射線技術科学専攻】

- (1) 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともに CAP 制を実施することにより、卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学修を促す。
- (2) 主体的に学び続け、見通す力と解決する力を涵養する教育を行う。
- (3) 自ら課題を見出し、その解決に向けて探究を進め、成果を表現する実践的な能力を身につけさせるため、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。

【検査技術科学専攻】

- (1) 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともに CAP 制を実施することにより、卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学修を促す。
- (2) 臨床検査に関する専門知識と技術の系統的な教育を行う。学習は講義・演習・実習を段階的に実施することで知識・理解・実践力を高め、臨床検査技師として必要な見通す力と解決する力を身につけさせる。
- (3) 将来にわたって自ら臨床検査学分野の課題を見出し、その解決に向けた論理的思考力と実行力を養うため、日頃からプレゼンテーション、グループディスカッション、アクティブ・ラーニングを取り入れた学生主体の能動型授業を展開する。

【理学療法学専攻】

- (1) 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともに CAP 制を実施することにより、卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学修を促す。
- (2) 理学療法に関する専門教育を通して理学療法の専門知識と実践力を習得し、リハビリテーション医療に関わる諸問題を見通す力と解決する力を涵養する教育を行う。
- (3) 演習、実習、臨床実習、卒業研究を通して、その課題の解決に向けて探究を進め、成果を表現する実践的な能力を身につけるため、学生が主体となる能動的な授業を行う。

【作業療法学専攻】

- (1) 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行うとともに CAP 制を実施することにより、卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学修を促す。
- (2) 作業療法に関する専門教育を通して作業療法の専門知識と実践力を習得し、リハビリテーション医療に関わる諸問題を見通す力と解決する力を涵養する教育を行う。
- (3) 演習、実習、臨床実習、卒業研究を通して、その課題の解決に向けて探求を進め、成果を表現する実践的な能力を身につけるため、学生が主体となる能動的な授業を行う。

3. 学習成果の評価

- (1) 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し、GPA を用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価する。
- (2) 各科目の学習成果は、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などの平常点で評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示する。

【看護学専攻】

- (1) 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し、GPA を用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価する。
- (2) 各科目の学習成果は、定期試験、実技試験、レポート、授業中の小テストや発表などの平常点で評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示する。

【放射線技術科学専攻】

- (1) 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し、GPA を用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価する。
- (2) 各科目の学習成果は、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などの平常点で評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示する。

【検査技術科学専攻】

- (1) 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し、GPA を用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価する。
- (2) 各科目の学習成果は、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などから臨床検査に関する専門知識及び技術の修得達成度を客観的に評価する。その評価方法については、授業内容の詳細とともに到達目標と成績評価基準をシラバスにおいて科目ごとに明示する。

【理学療法学専攻】

- (1) 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し、GPA を用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価する。
- (2) 各科目の学習成果は、定期試験、レポート、実技試験、授業中の小テストや発表などの平常点で評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示する。

【作業療法学専攻】

- (1) 学習成果を厳格に評価するため、カリキュラム・ポリシーに沿って策定された到達目標の到達状況が確認できる明確な成績評価基準を策定し、GPA を用いて教育課程における学習到達度を客観的に評価する。
- (2) 演習、実習、臨床実習、卒業研究を通して、課題解決に向けての主体性・自律性およびリハビリテーション医療に関わる諸問題を見通す力と解決する力を評価する。
- (3) 各科目の学習成果は、定期試験、レポート、授業中の小テストや発表などの平常点で評価することとし、その評価方法については、授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて科目ごとに明示する。